



(2000171)

特 許 願 優先権主張
昭和47年9月21日

特許庁長官殿

1. 発明の名称

ギヤチエンジ用係合装置

2. 発明者

住所 ニュー・スラザリア、コーベル、スレパニ

氏名 エリック・ミベック

3. 特許出願人

住所 ニュー・スラザリア、コーベル、スレパニ

名称 ト・ス・ナ・コ・ル・ニ・オ・ナル・ト・モ・ス

コーベル

ヘルマン・スベック

国籍 ニュー・スラザリア

4. 代理人

住所 〒105 東京都港区西新橋1丁目2番9号

三井物産館内 電話(591)0261番

(2400) 氏名 金 丸 義 男 外4名



47 094185 万 丈 登 査

明 細 書

1 発明の名称 ギヤチエンジ用係合装置

2 特許請求の範囲

1つの段に関連するVベルト伝動装置を段階的に係合・分離することによつてVベルトを被駆動軸上の所定のベルト車と共動せしめるようにしたVベルト使用のギヤチエンジ用係合装置において、負荷を伝える中空軸上に固定半部と可動半部からなる割ベルト車を取付け、可動半部のガス内に内面にらせんみぞを有するブッシュを固定し、寄せ棒を長手方向に移動してそのカラーで玉を中空軸の半徑方向の穴から押し出して中空軸を割ベルト車の可動半部に係合せしめるようにしたことを特徴とするギヤチエンジ用係合装置。

3 発明の詳細な説明

この発明は1つの段に関連するベルト伝動装置を段階的に係合・分離するVベルト使用のギヤチエンジ用係合装置に関する。

一つの段に関連するVベルト 捲回したベルト車を段階的に係合・分離するベルト伝動装置利用

① 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 48-39866

③公開日 昭48.(1973) 6.12-

②特願昭 47-94185

②出願日 昭47.(1972) 9.21

審査請求 有 (全4頁)

庁内整理番号

⑤日本分類

6837 3/

54 A3/

2125 3/

54 A12

のギヤチエンジは既に周知である。

既知のある例では1つの段に関連するベルト車が軸上でアイドリングする。所望の段に関連するベルト車と軸の固定的係合は軸の回転に就して固定されかつ軸上を移動自在なクラッチによつて行なわれる。クラッチは係合装置によつて作動される。ベルト車と軸の係合をたとえば歯付クラッチによつて行なう型のクラッチは軸と所望のベルト車が停止または等速回転時以外は入らない。ギヤチエンジの回転中に変速するには、ベルト車と軸の係合に摩擦クラッチを使用する必要がある。

ベルト伝動装置において適正なベルト張力を得るには、特別の調整装置を用いて駆動軸と被動軸の間隔を調節するか、遊び車または調整ロールによる。

さらにVベルト使用の無限可変ギヤチエンジも知られている。この型のギヤチエンジは割ベルト車を使用する。割ベルト車の一半部または両半部は軸上を軸方向に 動自在である。一方のベルト車の各半部を相互に分離し他方のベルト車の各半